

水いぼ(伝染性軟属腫)

水いぼはウイルスによる感染症で、人から人へうつります、乳幼児はまだ皮膚が薄く、バリア機能(※)が未熟で、免疫も不十分なため、主に7歳以下の乳幼児がかかります。

その名のとおり、水っぽい光沢があるいぼ(ぶつぶつ)ができます。いぼの中身はウイルスと変質した皮ふからなる白い塊です。かいてつぶれると、次々と広がっていきます。

(※)バリア機能：肌の内側に水分を蓄えて、外からの雑菌やアレルギー物質から体を守る働き

★症状★

○潜伏期間は14～50日です。

○1～3mm程度の水っぽい光沢のあるいぼが、わきの下、わき腹、首、ひじなどにできますが、かゆみや痛みはありません。

○アトピー性皮膚炎の子どもは、水いぼを湿疹と一緒にかいてしまい、広がるがよくあります。また、ステロイド剤を塗ると、水いぼが増えるため、アトピー性皮膚炎の適切な治療ができなくなることもあります。

★治療方法など★

個人差がありますが、6箇月～3年ぐらいで自然に治ります。しかし、その間に水いぼの数が増えるおそれがあります。水いぼの治療には、飲み薬のほか、水いぼをピンセットでつまんだり、液体窒素で凍らせて取るなどの方法がありますが、飲み薬以外の治療法は痛みを伴いますので、水いぼの数が少ないうちに、皮膚科を受診しましょう。

★感染経路と予防方法★

○水いぼの予防のため、保湿剤によるスキンケアで肌のバリア機能を高めましょう。

○プールの水ではうつりませんので、プールに入っても構いません。ただし、タオル、浮輪、ビート板などを介してうつることがあるので、これらを共用することはできるだけ避けましょう。

○プールの後はシャワーで肌をきれいに洗いましょう。

○兄弟や家族が感染したら、タオルを別にし、また、直接肌が触れないようにしましょう。

気になる症状がある場合は、すぐにかかりつけの医療機関を受診しましょう！



★お問合せ先★

○京都市保健福祉局衛生環境研究所 微生物部門

(TEL:075-606-2676 FAX:075-606-2671)

(平成28年6月編集)